

日本の製糸業発展に 尽力した先人たち

伊達藩養蚕発祥の地・入谷地区

今から300年前の元禄年間、金の産地であった入谷地区は掘りつくされて生業を失い、新たな産業を興すことが皆の願いでした。一人の若者が立ち上がり、養蚕の先進地・福島県伊達郡川俣に赴き、苦心の末、桑の栽培から製糸の技術までを習得。帰郷して入谷地区に広めました。こうして、世界的評価を集めるシルクを世に送り出す扉が開かれたのです。

まちの発展の礎を築いた養蚕業



ふるさとの入谷地区に養蚕技術を広めたその人、山内甚之丞は家々から繭を集荷。生糸を紡いで売りさばきました。時は元禄の繁栄期。伊達藩でも絹の需要が増えたものの生糸の生産は少なかったため、村は活気づき、養蚕・生糸生産の中心地となりました。ヤマセが霧雨を運ぶ風土が桑の生育にかなう、また清水川の清流で豊富な水が入谷産生糸の品質を不動のものとなりました。仙台平の袴に使われたほか、その銘柄「金華山」は京都西陣と直接取引するほど高い評価を受けました。この生糸こそが伊達藩の繁栄を支え、まちの発展の原動力となったのです。



万博グランプリに輝いた「金華山」

時を経て、まちの各家庭で行われていた養蚕業は、近代化の波とともに製糸業を確立させました。その発展に尽力したのが、志津川地区十日町の高橋長十郎です。

製糸業に手を染めていた長十郎は、それまで水力だった製糸機械の動力源にアメリカ製ボイラーを採用すること



を計画。1888年(明治21)に、約30名の製糸製造業者とともに、日本初の機械座繰り製糸工場「旭製糸会社」を創立しました。民間では国内最初に洋式ボイラーを導入。最新式の機械を備えた工場は、450人もの従業員を抱える大規模なものでした。

この工場で作られる生糸銘柄「金華山」は、世界へ輸出されました。その品質の高さはパリ万博(1900年)、イタリヤ・トリノ万博(1911年)と二度のグランプリを受賞するなど、世界を凌駕するに至ったのです。

まちの 歴史遺産

最大波高5.5メートル、 語り継がれる証言

チリ地震津波が教えてくれたこと

1960年(昭和35)5月24日、突如として太平洋沿岸を襲ったチリ地震津波は、またたく間に南三陸町市街地を壊滅。死者41人、被害総額52億円超の大災害をもたらしました。近い将来、高い確率で宮城県沖地震の発生が予想されている今日、南三陸町ではこの経験を教訓にし、「防災に強いまちづくり」を町民一丸となって進めています。

街が消えた！ あの光景は決して忘れない

24日午前3時20分頃、志津川湾の荒島辺りは鏡のような海面ながら、「舵を取っても船が蛇行」してしまふほどに。午前4時過ぎ、袖浜では異常な引き潮で「ゴロゴロ岩だらけの海底が見えたのです。」「異常な引き潮津波の用心だ。大変だ！逃げろ！」との電話での知らせに警察署が海の様子を確認。4時18分、町内に津波警報のサイレンが鳴り響きました。

4時37分、「ゴッ」という音とともに黒壁のような海水が襲って「きて、次々に高い波が市街地に押し寄せ、家屋がバリバリと倒れ流されていききました。」「逃げると父に言われても、身体が震えて動かない。手を引っ張



られ、高台へようやく避難したのです。4時42分、最高潮位は5.5メートルに達し、10分ほど経ち引水すると、「濁流が渦巻き、壊れた家や木材が流されていったのです。その後40分位の周期で、3メートルから1.2メートルの津波が翌朝まで押し寄せることに。」「街が消えた」というほど、あちこちに大量の家屋の破片や木材が散乱し、残骸の山が築かれたのです。



経験を伝え、団結して防災の取り組みへ

2週間余りの避難所生活では、子どもから高齢者までが家々の後始末に追われる中、山間部の人たちが峠を越えてボランティアに駆けつけるなど、町内外の心強い支援を得て、町民はようやく平穏な生活を取り戻していきました。南三陸町では、4年を費やして町を復興。志津川地区の市街地の95%が区画整理され、道路も拡幅されて、町は新しく生まれ変わりました。

津波での経験を次世代に伝え、悲惨な被害を繰り返さないよう、チリ地震津波記念日の5月24日に、町内全域を対象とした防災訓練が40年以上にわたり行われています。津波30周年を記念して建立された、松原公園のモアイ像は、町の防災のシンボルになっています。また1996年(平成8)には、防災無線戸別受信機を志津川地区全戸に設置するなど、防災に強いまちづくりが進められる中、町民一人ひとりの防災意識も高まっています。

Minamisanriku Town is the birthplace of sericulture in the Sendai Domain. In 1888, the "Asahi Silk Manufacturer" was established. It used a silk reeling machine for the first in Japan and was devoted to developing the Japanese silk industry. The 1960 Chilean tsunami must be remembered. The highest tide level reached 5.5 m, and the town was destroyed in an instant. From this lesson, we move on to "build a strong town against a disaster".